

令和4年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科：(公民) 科目：(現代社会) 対象：(第 3 学年 A 組～F組)

科目担当者：(A組～F組：二宮 印)

教科・科目の 指導目標	中学校で学んだ社会科公民分野の復習を本科目の中で随時取り入れ、公民分野の基礎学力の定着を図るとともに、将来社会を担うために必要な現代の社会情勢への興味関心や知識・理解を深める。
----------------	--

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	公民的分野については中学校時代の知識の定着が薄く、新聞やニュースを普段まったく見ないなど、政治的関心が低いことが伺えた。また、言葉を活用し記述する問題や自分の考えについても苦手意識をもっている生徒が多く、適切に表現することができない生徒が多いことが伺えた。自由に話し合うように、という問いかけについては沈黙してしまう生徒が多く、議論についても課題がみられる。	中学校で学んだ公民的分野の知識が定着していないと思われる。授業内で中学校時代の振り返りを行いつつ、知識と知識のつながりを意識できるように教授することで、知識を定着させる機会を多く取り入れる。また身近な問題と教科書の内容を結び付け興味関心を高める。さらにグループ活動やペアワークを毎時間取り入れて思考力を高めたい。	教科書の内容をしっかりと理解できるようにサポートし、自ら学び、自ら課題を見つけ、自ら解決できるような指導を増やす。またテスト前は放課後や土曜講習を活用する。自己表現については口頭、単語での記述、レポートなど、複数の手段を用いて特定の表現方法が苦手な生徒が不利にならないよう、かつ多様な表現手法を使えるように配慮する。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			